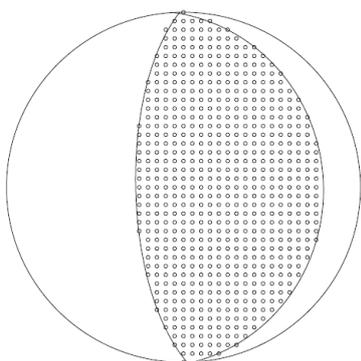


9月17日 チリ中部沿岸の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

W-phase による解

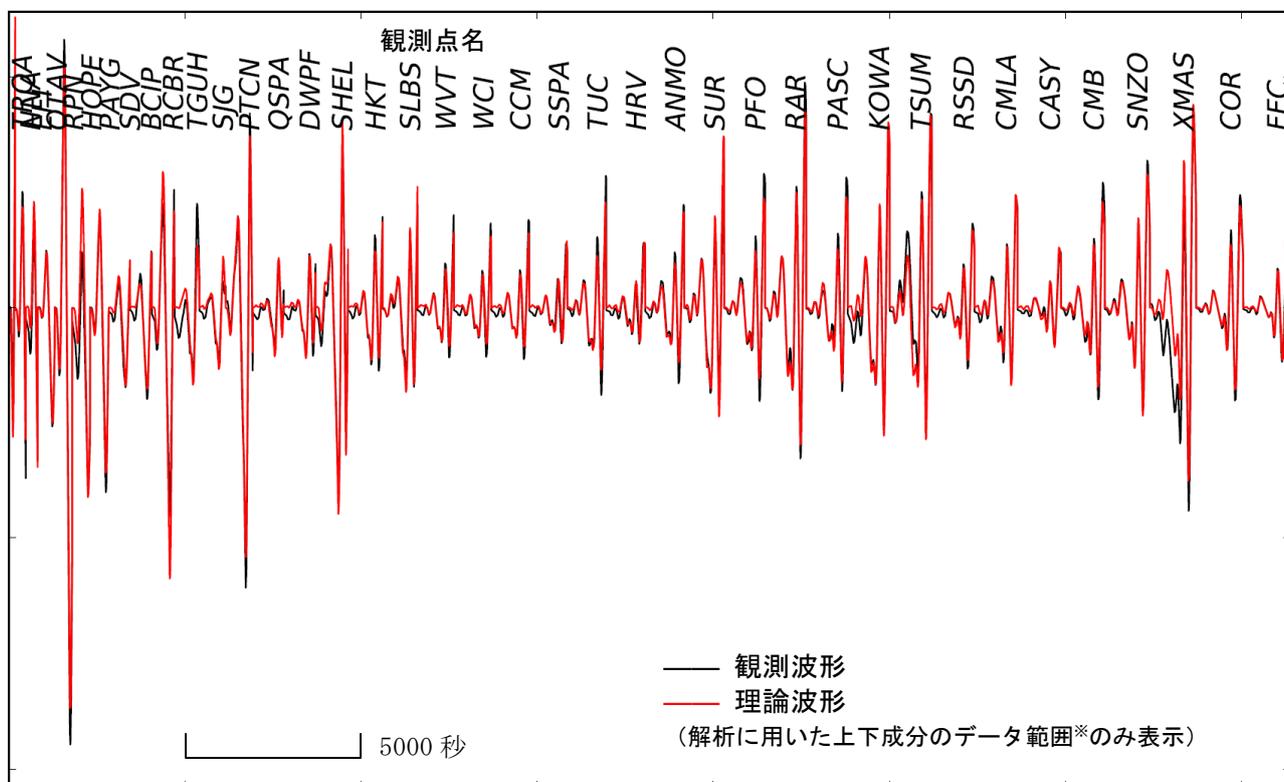


2015年9月17日07時54分(日本時間)にチリ中部沿岸で発生した地震についてW-phaseを用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、 M_w とも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、 M_w は8.2であった。なお、W-phaseの解析で求めた震源は $S31.4^\circ$ 、 $W71.8^\circ$ 、深さ24kmとなった。

W-phaseの解析では、震央距離 $10^\circ \sim 90^\circ$ までの39観測点の上下成分、38観測点の水平成分を用い、200~1000秒のフィルターを使用した。

注) W-phaseとはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。

M_w	M_0	断層面解1 (走向/傾斜/すべり角)	断層面解2 (走向/傾斜/すべり角)
8.2	$2.78 \times 10^{21} \text{Nm}$	$356.8^\circ / 22.0^\circ / 88.1^\circ$	$178.8^\circ / 68.0^\circ / 90.8^\circ$



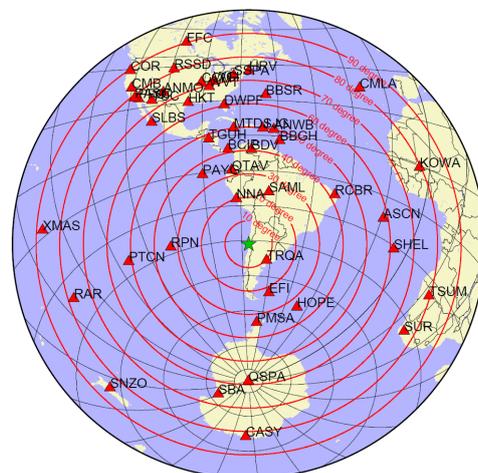
※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phaseに関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データにはIRIS-DMCより取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成